

平成 21 年度 (第 40 回)
兵庫県社会人都市対抗サッカー大会の記録
《神戸市代表チーム》

◆準決勝戦、神戸市代表は西宮代表に先制するも後半ロスタイムに追いつかれ、PK戦 11 人目で惜敗！

【試合日時】平成 21 年 9 月 26 日 (土) 13 時 00 分 kickoff (40 分ハーフ) <但馬ドーム芝 G>

【試合結果】 1 : 1 (前半 0 : 0 / 後半 1 : 1)

【得点者(アシスト)】 ①法橋 (高須)

【PK戦】 9 : 8 (先攻西宮 : 後攻神戸)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
先行 西宮	×	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	9
後攻 神戸	◎	◎	×	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	8
	高須	菊池	寺田	中村	越智	武田	藤井	酒井	村山	法橋	岡本	

スタメン				試合終了時			
11		9		7		9	
藤井		法橋		菊池		法橋	
7		14		11		17	
菊池		黒田		藤井		寺田	
8		10		6		10	
藤本		高須		武田		高須	
2		17		2		13	
越智		寺田		越智		村山	
5		4		5		4	
中村		酒井		中村		酒井	
12				12			
岡本				岡本			

【感想】強豪西宮代表とは前回(第 39 回)大会の決勝戦で神戸が延長戦の末 4 対 3 で勝利したが今回も非常に緊迫した試合となった。

まず前半から神戸らしいサイド DF によるサイド攻撃で何度もチャンスを作り押し気味に試合を進めるも、西宮は守備のポジショニングがしっかりしており、要所要所の寄せも速く神戸の決定的なシュートが何本もはじき返され、前半は 0 対 0 で終わった。

後半は中央部からの崩しを仕掛けるため、まずは FW にボールを当てて落としたところを MF がスピードに乗って拾いシュート又はラストパスを狙うようにした結果、後半早々、FW の落としたボールをボランチがダイレクトでもう一人の FW の足元にパスし、それをワントラップでシュートし先制点を挙げた。

その後もスピードと運動量に勝る神戸が何度もチャンスを作ったが決定力に欠き、徐々に西宮のカウンター攻撃を受ける場面が増えてきた。それでも今大会無失点の守備陣がなんとか防いでいたが、後半ロスタイム終了間際に、西宮の中盤からの速い縦パスをFWが最後まで追い続け、ぎりぎりタッチライン上でヒールキックし、それが守備陣の隙間を縫う形で諦めずに詰めていたMFの前にたまたま転がり、同点に追いつかれ、そしてすぐに終了のホイッスルが鳴った。

ここから壮絶なPK戦に突入するが、先攻の西宮が2人外し、神戸も同じように2人外してサドンデス、両者とも譲らず、最後は神戸の11人目が外し、残念ながらここで二連覇は断たれてしまった。

試合展開としては、神戸のほうが速く確実なパス回しで、DFからMFを經由してFWにしっかりとビルドアップし最後はシュートまでもっていくなど力強いサッカーをしていたが、やはり決めるべき時に決めなければ相手に盛り返され、守りに入ってしまうと負けてしまうということを見せつけられた試合であった。

余談として、試合中相手選手は仲間同士で何度か言い争う場面があり、逆に神戸はお互いにサポートし合い前向きな声掛けをするなどチームの雰囲気はすごく良かっただけに、スタッフは勿論、選手たちもこの敗戦に相当なショックを受けていたのが印象的であった。

それと結果論ではあるが、追加点が奪えないと判断した時点で、例えばロスタイム前にFW2人を下げて6DFにするなど、時間を効果的に消化しながら守備固めをしていれば守り切れたのではないかと、ベンチワークにも課題を見つけた。

【目標】 三位を死守し、次の大会（トレセンフェスティバル）に繋げる！

【記録】 通算戦績 1勝1敗、得点3、失点1 <H21.9.26 現在>

得点		アシスト	
3 得点	法橋	1 アシスト	越智、寺田、高須
-	-	-	-

以上

□決勝戦、西宮代表が開催地の但馬代表を1対0で破り優勝！

【試合日時】 平成21年9月27日（日）11時00分kickoff（40分ハーフ）<但馬ドーム芝G>

【試合結果】 1：0（前半0：0／後半1：0）

【感想】 西宮代表は前後半通して攻め続けたが、決定力を欠き、度々但馬代表のカウンター攻撃に脅かされていた。後半半ば過ぎにようやく先制点を挙げ、後はなんとか守り切った感じであった。

◆三位決定戦、神戸市代表は尼崎代表に5対3で勝利し三位を死守！

【試合日時】平成21年9月27日（日）12時30分kickoff（40分ハーフ）＜但馬ドーム芝G＞

【試合結果】5：3（前半5：1／後半0：2）

【得点者(アシスト)】①菊池（川井）、②菊池（高須）、③高須、④中村（木尾）、⑤村山（高須）

スタメン				試合終了時			
7	18			7	13		
菊池	和田			菊池	村山		
11			13	17			14
藤井			村山	寺田			黒田
6	10			8	10		
武田	高須			藤本	高須		
3	5	4	16	2	5	4	16
川井	中村	酒井	木尾	越智	中村	酒井	木尾
	21				12		
	荒谷				岡本		

【感想】昨日の敗戦を引きずることなくモチベーションを高く保ち、選手たちは三位を死守することに目標を切り替え、試合前から集中してアップをしていた。

この試合も前半から神戸らしいサイドDFによるサイド攻撃で何度もチャンスを作り押し気味に試合を進め、昨日の試合と違って選手たちに変な力みがなく、開始早々から神戸のゴールラッシュとなった。初戦もそうであったが、両サイドDFにアシストが付く試合は非常にいいリズムで攻撃ができていく証しである。

後半は途中からメンバーを大幅に入れ替えたために神戸のリズムが崩れ、尼崎に攻め込まれる時間が多くなり、結局追加点は奪えず後半は無得点・2失点で終わってしまったが、最後まで諦めず今大会三位を死守したことは、次に繋がる収穫である。

【総括】今大会が9月開催ということもあり代表選考の期間は短かったが、8月上旬に代表選手を選出し、以後盆明けから大会直前まで毎週練習や上位チームとの練習試合を重ねた結果、大会中の試合でさらに上達する選手が多く見受けられたのは収穫であった。

また、今回初めてサッカー合宿をしたが、同じモチベーションの選手たちが集まって、揃って食事し、夜遅くまでサッカー談議で盛り上がるなど、体育会系クラブ活動のような体験をすることによって、高いレベルでサッカーをすることの楽しさを選手たち自身が感じてくれたことは、神戸市社会人リーグの底上げや県リーグ昇格の意識を少なからず高めることができたと思われ、優勝は逃したが非常に有意義な大会であった。

神戸市代表に選ばれる最大のメリットは、神戸市代表チームであることによって数段格上の強豪チームと練習試合や本大会で戦うことができるということであり、下手でも構わないので、“雑草魂溢れるハングリーな選手”にもっともっと練習会に参加してもらいたい。

【目標】 来年3月に開催されるトレセンフェスティバルで高校選抜に2年連続で勝利する！
また、次回平成22年度(第41回)大会は開催地神戸として必ずリベンジし優勝を果たす！

【ギャラリー】

～選手・スタッフが一致団結したチームで雰囲気は最後まで明るい！～
サッカーバカの高須キャプテン(前列左端)、プレーでもチームを引っ張ってくれました！



～神戸が誇るサイドDFによるサイド攻撃～



～中盤からスピードに乗って積極的に仕掛ける～



～そして貪欲にシュート！～



【記録】通算戦績 2勝1敗、得点 8、失点 4 <H21.9.27 最終戦終了>

得点		アシスト	
3 得点	法橋【得点王】	3 アシスト	高須【アシスト王】
2 得点	菊池	1 アシスト	越智、寺田、川井、木尾 ※4名ともサイドDF
1 得点	高須、中村、村山		

以上